

第 43 回 Esri ユーザー会（2023 Esri User Conference）に参加しました (2023/7/10 - 14)

テーマ：「GIS - Creating The World You Want to See -」

会場：米国カリフォルニア州サンディエゴ市 サンディエゴ国際会議場

2023年7月10日～14日の5日間、米国サンディエゴの国際会議場にて「2023 Esri ユーザー会」が開催されました。ここは世界中から集まった ArcGIS ユーザーが様々な分野の研究で培った経験とノウハウを共有し、意見交換をする場となっています。今年は、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催され、世界各国から約 18,000 名、加えてオンラインでは約 10,000 名が参加しました。米国 Esri 社社長 ジャック・デンジャモンド氏による基調講演では「GIS - Creating The World You Want to See -」をテーマとして、GIS プロフェッショナルたちが、さらに深く未来を考え活動することで、持続可能、公平かつ豊かな世界を創造する。というビジョンが掲げられました。

災害レジリエンス共創センターからは、越村俊一教授がユーザー事例として「Disaster Digital Twin - A Mixed-Initiative of Human and Machine for Resilience -」と題し発表を行いました。「災害デジタルツイン」は物理世界の多様な観測データと災害発生時の社会動態データをリアルタイムで仮想世界に取り込み、シミュレーション分析を行うことで最良の施策を決定するための基盤であり、これによって被災地社会の災害に対するレジリエンスの強化を先導していく、という展望を提示しました。特に、モバイル空間統計を用いた滞留人口によるリアルタイム異常検知予測は、ひとの行動から災害のモニタリングと発生後の対策・復旧に対応する研究として反響を得、活発な意見交換を行うことができました。

「デジタルツイン」は世界でも高い注目度の研究テーマであり、会場は立ち見が出るほどの満席となり、この機会に多くの方々に情報提供できたことは有意義でありました。また、永田彰平助教（災害レジリエンス共創センター）、中谷友樹教授（環境科学研究科）、武田百合子学術研究員（災害レジリエンス共創センター）、は Map Gallery に「Changing Catchment of People Flows: mapping the variety of where visitors live over Japan」と題したマップを出展しました。モバイル空間統計データの「居住地」属性に着目し、人の流れの集積度（異なる地域から人が集まる度合い）が、地域や季節、イベントや災害に影響を受け変化する様子を広範囲にわたり時系列的に表現したマップは他に例がなく、多くの方に興味を持っていただくことができました。この場で情報交換を行い、GIS の最新の動向について調査することができました。出展したマップは下記 URL からご覧いただけます。

<https://storymaps.arcgis.com/stories/1505128c94284d23abcb2b4f848e867c>

期間中は、製品開発担当者による ArcGIS を最大限に活用するコツが学習できるテクニカルワークショップや、Esri ソフトウェア製品や各ソリューションでの製品デモなど、GIS の新しいアイデアを共有するセッションが多数開催されており、これからの研究に活用できる技術や情報を得ることができました。

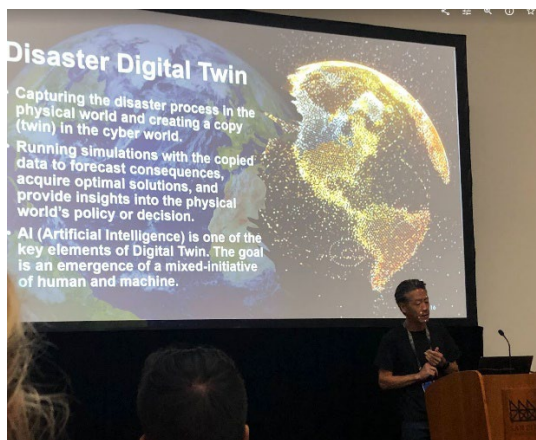
文責：越村俊一、永田彰平、武田百合子（災害レジリエンス共創センター）
中谷友樹（災害レジリエンス共創センター 戦略推進委員会）
環境科学研究科 都市環境・環境地理学講座 環境地理学分野



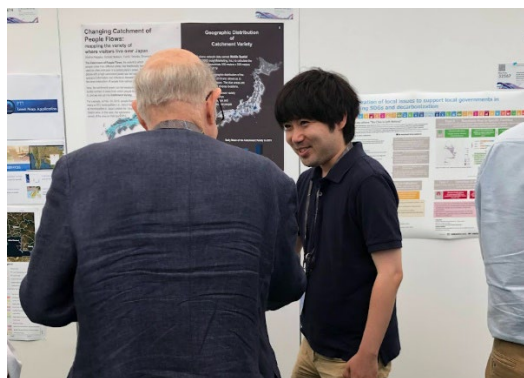
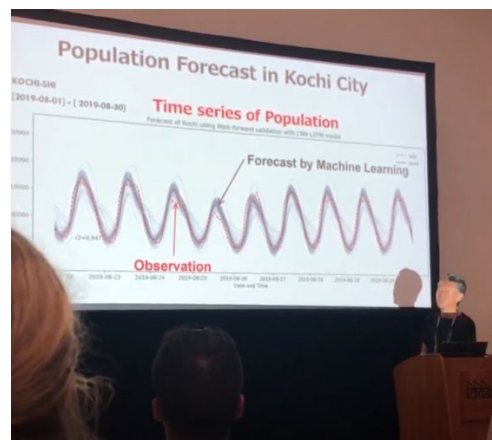
米国 Esri 社長 ジャック・デンジャモンド氏による基調講演



会場サンディエゴ国際会議場の様子



ユーザー事例発表「Disaster Digital Twin - A Mixed-Initiative of Human and Machine for Resilience -」災害デジタルツイン開発について紹介する越村教授



Map Gallery にてポスターについて説明をする
 永田助教



Map Gallery 会場